



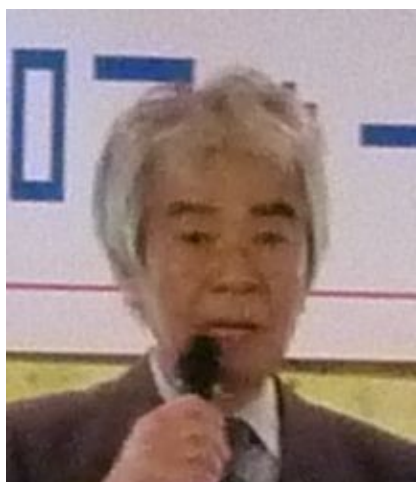
鹿児島県護憲平和 フォーラム情報

NO—3 2011.9.5

発行：鹿児島県護憲平和フォーラム E-mail:kenheiwa@bronze.ocn.ne.jp
連絡先：鹿児島市鴨池新町5-7 TEL 099-252-8585 FAX099-258-4560

原発はもうこいごいだ

鹿児島県護憲平和フォーラム 代表 井之脇 寿 一



この時節、
原発問題に
触れないわけにはいかない。

福島県内
では福島第
一原発から
20km 以内に
法的強制力
のある「警戒
区域」が、そ

の外側に「計画的避難区域」が、さらにその周辺には「緊急時避難準備区域」が設定され、これら区域の合計は12市町村、約21万人で県人口の1割を超え、うち約6万人は県内外で避難生活を強いられている、と言う（世界8月号宮入興一）。

牛や馬そして犬や猫などを置いたまま避難を余儀なくされている人たちの苦痛と悲憤とを思うと全く遣りきれない。

8月28日23時ころ、教育テレビを点けた。二本松市のある家で放射線量が高く、これを市職員や科学者の協力で「除染」する作業とその苦労が映し出されていた。同市は原発立地から西北西に約60kmの距離にある。どうやって除染

するか。屋根を洗う。雨どいに溜まった砂を取り除く。自宅の庭を深さ5cmずつ剥がす。1軒の家での作業は約8時間かかった。線量は半減したそうである。除去した土は約4トンに上り、それをビニール袋に詰めて、自分の休耕田に運搬し仮置き場とし、青いビニールシートで覆っていた。最終処分場はまだ決まっていないという。

このような惨状をもたらした原因はいったいどこにあり、その責任は誰にあるのだろうか。

8月18日、佐高信「原発文化人50人斬り」（毎日新聞社）を購入した。その中からいくつかを紹介したい。

原発を推進した超A級戦犯は中曽根康弘と正力松太郎である。正力が読売新聞社主であることは周知のことと思うが、読売が「原発新聞」と揶揄されていることは知らなかった。

加藤周一・鶴見俊輔とともに九条の会の代表世話人の一人梅原猛が中曽根に取り込まれ、原発の提灯持ちをしていたことには驚かされた。元東大総長小宮山宏が東電の監査役におさまっているが、何の監査もしていなかったことになる、と切り捨てる。

佐高は、アントニオ猪木がかつて青森県知事選で原発一時凍結派の候補者応援を150万円で承知していたが、電事連から1億円を提示され、

推進派に乗り換えたことを皮切りに、作家の幸田真音・荻野アンナを槍玉にあげる。続いて「安全神話の最大のホラ吹き役が漫画家の弘兼憲史。脳科学者として売り出した茂木健一郎や養老孟司がこれに次ぐ。養老など、「バカの壁」というベストセラーを出したが、自分自身が最大の「バカの壁」ではないのか」とまことに小気味よい。

佐高はついで反原発の群像という章を設け、冷飯を食わされながら頑張っている人を紹介している。60年代公害を告発しつづけたために東

大で助手のままだった宇井純や熊大で助教授で終った原田正純のことを書き、国策に反対することの困難に言及している。

佐高はまた、上関原発に反対している祝島の人たちが作った「上関原発音頭」を紹介し、これが傑作なのだが、余白がない。

いま私たちにとりあえずできることは、9.11の県民集会の成功と署名集めに努めることだろうか。

第1～2次川内原発増設反対署名行動報告

薩摩川内市民の6割近くの方々が

川内原発3号機建設中止署名に応じる

12月までに目標40,000筆集約をやり抜こう

川内原発増設反対県共闘会議(荒川譲議長)は、川内原発建設反対連絡協議会(鳥原良子会長)がとりくんでいる薩摩川内市長あての「川内原発3号機増設の中止を求める署名」の成功へ向け、8月から12月までの5か月間、毎月2回の統一行動日を設定して県下各地から薩摩川内市に結集し、全戸ローラー方式での署名活動を行なっています。

8月20日(土)の第1次と27日(土)の第2次行動を終え、自治労や社民党など151人、71組が薩摩川内市内での署名行動に参加しました。これまで2,780世帯を訪問して1,182世帯で面接し、703世帯の市民から1,055筆の署名を集約することができました。お会いできたお宅の59.5%で、1.5筆署名をしていただいたこととなります。「頑張ってください」、「やっときてくれた」、「やっぱり原発は怖い」、「これ以上はならない」、「思ったより反発がなかった」という声の一方、「電気が足りなくなるのでは」、「雇用の場が奪われる」、「反対だが村八分が怖い」、「代替エネルギーがないと原発は必要」などの声も寄せられました。

第1次行動と第2次行動の内訳は以下の通りです。

8月20日(土) ・第1次川内原発増設中止署名行動

65人=31組、1,397世帯を対象

面接500世帯:留守659世帯、転居不明26、未訪問212世帯

署名実績、279世帯、409筆

8月27日(土) ・第2次川内原発増設中止署名行動

86人=40組、1769世帯対象

面接682世帯:留守860世帯、転居不明73、未訪問174世帯

署名実績、424世帯、646筆

今後、9月10日と17日、10月1日と22日、11月12日と26日、12月10日と17日の8回の行動が予定されています。多くの皆さんの参加で、薩摩川内市民の声を市長に届けましょう。

「上関原発建設反対キャラバン行動」実施

長崎爆心地公園～山口県上関

8月16日～28日



8月16日(火), 長崎の爆心地公園を出発し, 8月28日(日)山口県上関まで「上関原発建設反対キャラバン行動」が行われました。

鹿児島県原水禁としても, このとりくみに「九州はひとつ」をスローガンに, 原発(川内原発)立地県として, 「21日(日)佐賀市役所前9時30分出発～基山町役場前(17時)」までの歩行キャラバンに参加することに

しました。このキャラバンに, 鹿児島ブロック2人(肥後洋平さん・湯浅慎太郎さん)と牟田実県護憲平和フォーラム事務局次長の3人が参加しました。

ところが, 佐賀市役所前での出発式では, 豪雨と雷に見舞われ, 出発式のみで開催となりました。佐賀市内は街宣車で「脱原発」の訴えをするのみとなりました。ただ, 午後になって天気も上がり,

鳥栖市役所前(14時30分)から, 基山町役場までの約8キロを歩いて行進しました。鳥栖地区の組合員や家族・子どもの皆さん含め約50人も加わり佐賀から福岡までの「さようなら原発1000万人アクション」「上関原発建設反対」のキャラバンを成功させることができました。

佐賀県の皆様には大変お世話になりました。



チェルノブイリの現在と現実が夢であって欲しい福島

「チェルノブイリと福島原発講演会」を開催

8月1日～2日

鹿児島県護憲平和フォーラムと川内原発増設反対鹿児島県共闘会議は8月1日に鹿児島市・よかセンター(200人)、8月2日に薩摩川内市・中央公民館(150人)で「チェルノブイリと福島原発講演会」を開催しました。

チェルノブイリからの報告

「今と未来の子どもたちを助けよう」

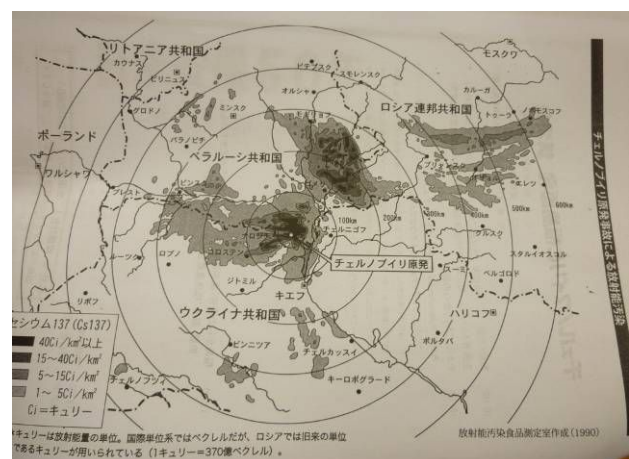
アントン・ヴドヴィチェンコさん(事故当時 小学生)



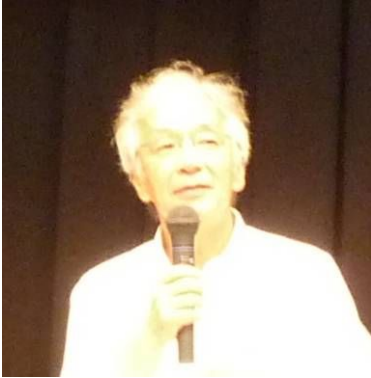
私は200^{km}圏内の北西の方向にあるところに住んでいます。今チェルノブイリ事故は国際的な問題では無くなりつつありますが、この問題は一地方では社会的経済的にやっていけない問題であります。1986年4月27日に私たちの住んでいるところでとんでもないことが起こったとニュースで知りました。友だちとお父さんが「大きな黒い雲が起り雨が降ってきた」と言っていました。私たちはそれが放射能であるとは判っていませんでした。森の中で遊んでいたのです。私たちはその雨を直に受けましたが、

当時のソ連邦はチェルノブイリとモスクワの間で食い止めようとしていました。また現地の26,000人の人たちが避難しました。勿論私たちに大切な技術者なども土地を去ってしまいました。事故前は195地域がありましたが、今は19地域であり、事故の影響が大きく関わっています。経済的にも多くの人たちが働くのを辞めてしまいました。事故後政府から一人につき日本円で1,500円が支給されています。これでは生活できなく多くの人が去り死の街になっています。そこで父と子どもたちは非政府組織を立ち上げ地域の老人・子ども

・身障者を助けようとしてきました。私たちの組織は座して待つより将来の子どもたちを助けようと立ち上がりました。1992年にドイツ人の手助けを受けるようになりました。ハンディを持った子どもたちをスウェーデン・ドイツに送り出しました。子どもたちのためには放射能のないところに行かせるということでサマーキャンプとかに行かせました。精神障害の子どもは1年間外国の施設に行かせることもやりました。この子どもたちはすべてチェルノブイリ事故にあった子どもたちです。勿論普通の子どもたちにはコンピューターなどを教えました。2004年には甲状腺に対するチェックも始めました。12歳の子どもから100歳の人までの甲状腺のチェックもやっています。国連からも支援を受けています。スイス・イギリス・アメリカからも支援を受けています。日本の原水禁からも手厚い支援を受けています。私たちが闘っているのは未来の子どもたちのためであり、今病気で苦しんでいる子どもたちのためであり、一緒になって闘うことが大事であり、お互いの闘いを話しあうことです。



佐藤 龍彦さん（福島県双葉地区原発反対同盟）



私は原発から 17～8 キロの所に住んでいて、避難者の一人です。

結論から先に言えば、核と人類は共存できません。私たちの主張が正しかったことが証明されました。核の平和利用はつい最近まで言われてきました。一万年に一回起こるか起こらないかのことからという安全神話が見事に崩れました。しかし私たちの主張がいくら正しかったと言っても、この大惨事と現象をみれば虚しさと悔しさが残るだけです。そこで「この現象は夢であって欲しいな」「佐藤さんが言われたことは嘘だったと言われてみたい」との思いで一杯であります。

私は 3 月 11 日の 2 時 46 分はたまたま休みで自宅にいました。こたつの中でうとうとしていたら、突然グラグラと地震が来ました。なかなか治まらない横揺れでした。そのうち神棚のだるまがみんな落ちるなど飾ってある様々な物がバタバタと落ち始め、これはただごとではないぞと思いついながら玄関を出たら、瓦が落ちてくる、石灯籠が倒れる、電柱が曲がり始める、隣り近所の人たちが飛び出してきて、怯え抱き合いながら震えていました。また塀も倒れるという現象が数時間続きました。ふと気づくと私の母親がいないので、見つけて廻ったら電柱にしがみついでいました。私は早く電柱から離れろと引き離し家までつれてきました。

そのうちに津波情報が出ました。しばらくしてテレビをつけるとその惨劇は劇面を見るような感じでありました。そのうちあの人々が流されたとか、誰々の家が流されたとかの多くの情報がどんどん入りました。第 1 波の津波 3 m、第 2 波 10m 超、見た人に聞けば黒いカーテンが一直線になって押し寄せてくるようだったと言っていました。第 1 波が来てから後片付けに行った人の多くが第 2 波で飲み込まれています。私の家もメチャクチャの状態でありました。幸いに母・孫・嫁・息子元気でありました。妻は東電の関連会社で第 2 原発の仕事で、なかなか安否が判りませんでした。まんじりともせず一夜を過ごしました。

後から判ったことですが、第一原発は、地震でひびが入り配管・配線がズタズタにされ壊れました。その後の津波で非常用電源が断たれ、ブラックアウトの状態になり、全てが止まってしまいました。現実には 2 か月後の発表で、メルトダウン・メルトスルーが起こっていたことが判りました。

また、半径 20km 以内は、西に避難せよとの連絡が来て、近所の人を車に乗せて避難所に避難しましたが、かねて 30 分位で行けるところを皆車で出掛けていたので、大渋滞に陥り約半日掛けて避難所にたどり着けました。避難した全員が、2～3 日で帰れるとの思いで着の身着のまま出て行きましたが、4 か月経つてもいまだに全員が避難生活であります。

1 号炉爆発時に北西の風が吹いていました。翌々日 3 号炉・2 号炉は建屋が吹っ飛びました。チェリノブイリの 1/10、広島原爆の 80 発分の放射能が出ていると言われていました。

福島の現実には 20 km を超えるところでも避難指示が出されていますし、今日ホットスポットも出てきています。放射能は県内あちこちに飛び散り、福島県民 203 万人に対して影響を与えています。中通りと言われる福島市 30 万人・郡山市 10 万人を含む地域が放射線管理区域で、県内の半分当たる 100 万人がそこにいます。福島の大気・空・農・漁業・水・コウナゴなど、もう水際で止められない状況であり、その後も稲藁汚染が全国に広がっています。サクランボも昨年 5,000 円のものでも 1,000 円でも売れません。桃もまた然りです。これに第 1 次産業の米がやられれば農業は全滅です。米については浜通りでは作付けしていません。中通りも様子を見ています。併せて観光も全然だめです。

原子力事故収束対策は取りあえず「冷やすこと」です。1・2・3号炉のメルトダウンに対して冷やし続けなければなりません。貯蔵できない燃料棒も冷やし続けなければなりません。揮発性のあるセシウム30年・ヨウ素8日の半減期です。それに対し半減期の長いプルトニウムは半径3~4kmに降り注いでいます。今まで20万トンの水で冷やし続けていますが、その水は地下・冷却プールにたまっています。そんな現場で一生懸命働き続けている労働者がいることも事実です。夏場の40℃の中、皮膚を出してはいけないと下着を付け、その上に防護服をテープで留めての作業でバタバタと熱中症で倒れていく現実もあります。また一般の人は一日1ミリシーベルトなのに250ミリシーベルトに設定を変えています。100ミリシーベルトを超えるとやがてガンになる人が多くなると言われている数値です。他にも必死になって働いている自治体職員・病院・公務員など多くの労働者が働いています。眠れない中、にぎりめしを食い食い働き続け、今やっと一息付ける状態になってきています。東電・国・自民党・官僚・そして東電労組による大量殺人であります。

「直ちに影響はありません」、この発言に不安を持った人たちがたくさんいます。爆発があったことを「事象」が有ったといい、メルトダウンも5月12日に初めて発表しています。子どもの被爆量を1ミリシーベルトから20ミリシーベルトに緩和したことに親が怒っています。中通りが20ミリシーベルトを超えなかったから、20ミリシーベルトにしたということです。

私たちは、安心して暮らせる福島を返せ、隣近所・地域と昔のように暮らせるまちを返してくれ、人生を返してくれ、の思いで一杯です。そのためには全国原発を止めることです。

たかが電気のためにうちに帰れない。福島は3月11日以降全てが止まっています。その中で季節だけが変わっていています。93歳のおばあさんが「墓に避難します」の言葉を残し自殺しています。

全日本・全世界の話聞きながら福島を再生したいと思っています。今後ともご支援をお願いします。

チェルノブイリは25年経つのにまだまだ今から先が見えず、一方で政府はお荷物扱いにしているし、原子炉からは水蒸気が出ているという話を聞き、これからも何年かかるか判らない大災害ということがよくわかりました。福島ではこれが嘘であってほしいといわれるほどの大変な状況を作り出しています。

定期点検に入った原子炉の再稼働阻止と新設・増設が計画されている原子炉絶対反対に向けて、川内3号炉増設反対署名並びに全国1,000万人署名達成を全員の参加で勝ち取らなくてはなりません。



原水禁世界大会・広島大会報告

鹿児島県護憲平和フォーラム 代表 荒川 譲



2011年3月11日の東京電力福島第1原子力発電所の過酷事故を体験した被爆66周年原水爆禁止世界大会は今年新たに設定した福島大会(7月31日)を皮切りに、国際会議(8月5日)、広島大会(8月4日～6日)、長崎大会(8月7日～9日)、沖縄大会(8月11日～13日)の日程で開催された。

広島大会は8月4日15時半出発の「折鶴平和行進」から開始された。全国各地でとりくまれた「非核平和行進」が到着した平和公園資料館前に大会参加者も結集・合流して、原爆ドーム周辺を経て大会会場のグリーンアリーナまで1時間ほどの行進を行った。

原水禁、連合、核禁の3団体が主催する「核兵器廃絶2011平和ヒロシマ大会」には6,800人が結集、開会あいさつの川野浩一原水禁議長は勿論、南雲弘行連合事務局長の主催者代表やその他のあいさつでも東日本大震災と福島原発事故とエネルギー政策の在り方に言及があった。しかし大会の性格上、脱原発の視点が示されたわけではなかった。

他方、今回の原水禁世界大会の「基調」には従来とは異なる特徴があった。「核は人類と共存できない」という理念を具体化する行動指針として、福島の現実を招いた国策としての原子力政策・原発推進を徹底して批判し、そこから運動を展開するという方向である。この課題に対して「基調」は実に8割以上もの字数を割いている。さらに、分科会の構成も例年とは異なり、最初に「脱原発問題」を置き「平和・核軍縮」を後ろに下げている。十分首肯できる方針であ

るだけに第1日の「大会」への違和感が増す。

第2日目には終日国際会議、午前は分科会、午後はひろばなどの行事で、私が参加したのは午前には第3分科会「平和と核軍縮2」、午後は国際会議であった。

第3分科会では軍事評論家・前田哲男氏が『「3・11」と“日米同盟”の新たな関係 震災有事に名を借りた軍事一体化』と題して問題提起を行った。大震災における自衛隊の出動の功罪、米軍の「トモダチ作戦」の真意を分析して、「最初の共同統合実動作戦」であったとし、脱原発とともに「自衛隊と安保」のあり方を転換させるべきと指摘した。「南西」重視が指摘されながら馬毛島のFCLPが話題に上らなかったの、現状を報告しておいた。

国際会議の午後の部は「第3セクション エネルギー政策の転換に向けて」のテーマで西尾漢(日本)、ベーベル・ヘーン(ドイツ)、徐光蓉(台湾)、アリシア・ゴズバーク(アメリカ)の報告があり、討論では会場からフィリピン、韓国、台湾などアジアの参加者の発言が多かった。参加者の延べ数は160人と発表されたが、第3セクションでは60人程度で日本人の参加者が少なかった。分科会やひろばとの並行開催の限界であろうか。また、「ノーニュークス・アジアフォーラム」、「日韓反核市民社会フォーラム」、「原水禁実行委員会」の3団体主催の趣旨がどれだけ生かされていたらうか。

18時半からは「さよなら原発1000万人アクション」関連行動の一環として原爆ドームを囲む人間の鎖がとりくまれた。

3日目の8月6日は8時からの平和公園での平和記念式を傍聴して9時半から中国新聞ホールで「まとめ集会」が開催され、メッセージ from ヒロシマ2011、海外ゲスト、上関原発、福島原発事故についてスピーチや報告があり、「フクシマに連帯する特別決議」と「ヒロシマ・アピール」を採択して全日程を終了した。参加者は760人であった。